

各研修課程要項

【WEBによる申込】

第 18 回 摂食障害治療研修

1. 目 的

摂食障害に関する専門的な知識及び技術の習得を目的とする。このことにより摂食障害の治療者・医療スタッフの養成を目指す。

2. 対 象 者

- 病院、保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、摂食障害に関心を有する医療従事者
- ・精神科、心療内科、一般内科、小児科で臨床に従事している医師
 - ・臨床心理業務等に従事する者
 - ・看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等

3. 研修期間

令和 3 年 6 月 9 日（水）から令和 3 年 6 月 11 日（金）まで

4. 研修主題

摂食障害の病態と治療に関する最新の知見

5. 課程内容

(時間)

5. 課程内容

(時間)

1. 摂食障害の疫学・病態・治療概論 (1.5)
2. 心理教育 (1.5)
3. 初期対応と外来診療 (1.5)
4. 入院治療 (1.5)
5. 身体合併症・身体的管理 (1.5)
6. 精神障害・パーソナリティ障害を合併する摂食障害 (1.5)
7. 小児例の初期対応と診療 (1.5)
8. ガイデッド・セルフヘルプ (1.5)
9. 家族支援と家族療法 (1.5)
10. 当事者の話を聞く (1.5)
11. 症例検討 (1.5)
12. 総合討論 (1.5)

合計 18 時間

6. 定 員

60 名 (応募者多数の場合は選考)

7. 申込方法・期間

WEB (所属長の推薦書が必要です) 令和 3 年 4 月 1 日 (木) ~ 4 月 20 日 (火)

8. 受 講 料

18,000 円

9. 会 場

国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第7回 災害時 PFA と心理対応研修

1. 目的

本研修は、自然災害等の災害時に必要とされる心のケア（社会心理対応）についての基本的な知識を習得し、あわせて WHO 等の国際機関が開発した「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に基づいた被災者対応のスキルを実地に応用できる人材を育成するために実施されます。

第1日目には PFA の実技研修を行います。20-30 名程度のグループに分かれ、ロールプレイ、コミュニケーションスキル訓練、シナリオに基づいた討論などを織り交ぜて、実際の対応能力の向上を目的とします。また、第2日目には、トラウマと悲嘆を含む心のケアの概論、子どもの反応についての講義を行うとともに、軽度の精神症状が残った人々の心理的回復を促すためのリカバリースキルについても研修を行います。

PFA は災害だけではなく、犯罪被害、事故などのトラウマ被害者に対しても実施できる、汎用性の高いスキルです。この機会を積極的に活用され、災害に備えるとともに日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

自然災害、甚大事故、犯罪、テロ等のトラウマ的出来事に際して、実際に被災者、被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある、精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術者、行政職員、教育関係者等。

3. 研修期間

令和3年6月22日（火）から令和3年6月23日（水）まで

※第8回災害時 PFA と心理対応研修は、令和3年10月5日（火）～10月6日（水）です。

研修内容はいずれも同一です。

4. 研修主題

「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に関する基本技能を習得する。またトラウマ、悲嘆、子どもの反応を含む、災害時の心理的反応を理解し、基本的な対応スキルを習得する。

5. 課程内容	(時間)
PFA の定義と枠組み	(2.0)
PFA の活動原則	(1.5)
PFA ロールプレイ	(1.5)
セルフケアとチームのケア	(1.0)
災害と心のケア概論	(1.0)
子どもの反応	(1.5)
心理回復スキル	(2.5)
総合討論	(1.0)
	合計 12 時間

6. 定員 50 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB(所属長の推薦書が必要です) 令和3年4月5日（月）～4月26日（月）

8. 受講料 12,000 円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第 34 回 薬物依存臨床医師研修

第 22 回 薬物依存臨床看護等研修

1. 目 的

国内外の薬物乱用・依存をめぐる情勢を考慮すると、我が国の精神医療、精神保健の中での薬物依存問題はますます重要性を増していると考えられる。そのため、薬物依存に関心を持つ医師、看護師等を対象に、薬物依存の概念・現状理解、基礎知識、臨床的対応法にわたる研修を行い、薬物依存の診断、治療及び予防にかかわる医療関係者を増やすことを目的とする。

2. 対 象 者

精神科病院、精神保健福祉センター等に勤務する医師、看護師等

3. 研修期間

令和3年9月7日（火）から令和3年9月10日（金）まで

4. 研修主題

薬物依存症概念の理解と薬物依存症に対する臨床的対応の普及

5. 課程内容

	(時間)
薬物依存に関する基礎知識と現状把握	(1.5)
薬物依存の形成機序（精神依存・身体依存）	(1.5)
覚せい剤精神疾患の生物学的機序	(1.5)
覚せい剤依存・精神病の臨床	(1.5)
ベンゾジアゼピン系薬物の基礎と臨床	(1.5)
大麻の薬理作用及び行動毒性	(1.5)
女性薬物依存症者の臨床的特徴	(1.5)
青少年における薬物乱用の特徴と乱用防止のあり方	(1.5)
医療施設における薬物依存の治療	(3.0)
精神保健福祉センターにおける取り組み	(1.5)
全国の民間リハビリ施設の現状と課題	(1.5)
回復者による自助グループ活動	(1.5)
薬物依存者家族の支援について	(1.5)

合計 21 時間

6. 定 員

医師 20 名、看護師等 30 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間

WEB 令和3年7月2日（金）～7月16日（金）

8. 受 講 料

24,000 円

9. 会 場

国立精神・神経医療研究センター 研究所3号館セミナールーム

第8回 災害時 PFA と心理対応研修

1. 目的

本研修は、自然災害等の災害時に必要とされる心のケア（社会心理対応）についての基本的な知識を習得し、あわせて WHO 等の国際機関が開発した「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に基づいた被災者対応のスキルを実地に応用できる人材を育成するために実施されます。

第1日目には PFA の実技研修を行います。20-30 名程度のグループに分かれ、ロールプレイ、コミュニケーションスキル訓練、シナリオに基づいた討論などを織り交ぜて、実際の対応能力の向上を目的とします。また、第2日目には、トラウマと悲嘆を含む心のケアの概論、子どもの反応についての講義を行うとともに、軽度の精神症状が残った人々の心理的回復を促すためのリカバリースキルのについても研修を行います。

PFA は災害だけではなく、犯罪被害、事故などのトラウマ被害者に対しても実施できる、汎用性の高いスキルです。この機会を積極的に活用され、災害に備えるとともに日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

自然災害、甚大事故、犯罪、テロ等のトラウマ的出来事に際して、実際に被災者、被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある、精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術者、行政職員、教育関係者等。

3. 研修期間

令和3年10月5日（火）から令和3年10月6日（水）まで

※第7回災害時 PFA と心理対応研修は、令和3年6月22日（火）～6月23日（水）です。

研修内容はいずれも同一です。

4. 研修主題

「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に関する基本技能を習得する。またトラウマ、悲嘆、子どもの反応を含む、災害時の心理的反応を理解し、基本的な対応スキルを習得する。

5. 課程内容

	(時間)
PFA の定義と枠組み	(2.0)
PFA の活動原則	(1.5)
PFA ロールプレイ	(1.5)
セルフケアとチームのケア	(1.0)
災害と心のケア概論	(1.0)
子どもの反応	(1.5)
心理回復スキル	(2.5)
総合討論	(1.0)
合計	12 時間

6. 定員

50 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間

WEB(所属長の推薦書が必要です)令和3年7月20日（火）～8月9日（月）

8. 受講料

12,000 円

9. 会場

国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第 13 回 認知行動療法の手法を活用した 薬物依存症に対する集団療法研修

本研修は平成 28 年度より新設された「依存症集団療法」の施設基準に定められている研修会です。なお、診療などのやむを得ない理由で最終日ご受講できない場合でも、「依存症に対する集団療法に係る研修」の要件を満たすため修了証書を発行します。最終日ご受講できない場合は、WEB 申し込みの際に「特別連絡欄」にて予めその旨お知らせください。

1. 目的

薬物依存症者に対する積極的な援助ができるようになるとともに、Matrix Model を参考にした包括的外来薬物依存症治療プログラムを実施するための基礎を身につけるとともに、薬物再乱用防止プログラムを実施できる援助者を増やし、国内各地にプログラムを普及させることが目的である。なお、本研修は、診療報酬における「依存症集団療法」算定における施設基準資格者養成研修でもある。

2. 対象者

医療機関、行政機関、司法機関、民間回復施設等で薬物依存症者の援助に従事している者。

3. 研修期間

令和 3 年 11 月 15 日（月）から令和 3 年 11 月 17 日（水）まで

4. 研修主題

薬物依存症者の臨床的特徴と治療に関するエビデンスを理解し、直面化を避けた動機付け面接の重要性を理解し、薬物依存症に対する集団認知行動療法の実践の実際を学ぶとともに、家族支援への理解を深める。なお、当研修と当センター精神保健研究所薬物依存研究部主催による「薬物依存臨床医師・看護等研修」の両方を終了した者に対しては、薬物依存研究部より「薬物依存専門課程修了認定書」を授与する。

5. 課程内容

	(時間)
薬物乱用の実態と乱用・依存・中毒概念の理解	(1.0)
薬物依存症患者への対応の基礎	(1.0)
SMARPP の理念と意義	(1.5)
SMARPP の実際	(1.5)
薬物依存症からの回復のための社会資源	(1.0)
薬物依存臨床における司法的問題	(1.0)
ビデオ学習・デモセッション	(3.0)
再乱用防止プログラムのグループワーク	(3.0)
薬物依存症と性的マイノリティおよび HIV 感染	(1.0)
動機付け面接の基礎	(2.0)
依存者家族の支援プログラム CRAFT の基礎	(1.5)
総合討議	(1.0)

合計 18.5 時間

6. 定員 100 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 令和 3 年 9 月 6 日（月）～9 月 27 日（月）

8. 受講料 18,000 円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第1回 精神科救急医療体制整備研修

1. 目的

精神科救急医療体制整備事業の現状と課題について理解し、第6期障害福祉計画に向けて実効性を持ったモニタリングをするための知識と技術を習得することを目的とする。

本研究は、精神科救急医療体制整備事業および精神障害にも対応した地域包括ケア構築推進事業の支援という位置づけでの研修になります。

2. 対象者

- ・都道府県精神科救急医療体制整備事業担当者および精神医療相談窓口相談担当者

3. 研修期間

令和4年2月5日（土）

4. 研修主題

精神科救急医療体制整備事業の現状と課題について理解したうえで、精神科救急医療体制整備に関連する課題やデータの見方、ReMHRADの見方と使い方等を学び、各自自治体の精神科救急体制整備に係る施策の立案やモニタリングのためのスキルを習得する。

5. 課程内容

	(時間)
精神科救急医療体制整備事業の現状と課題について	(1.0)
各自自治体の精神科救急医療体制に関するデータの見方と使い方	(1.5)
精神科救急医療体制整備事業の概要調査について	(1.0)
各自自治体の精神科救急医療体制整備事業の現状と課題等に関するグループワーク	(1.5)
合計	5時間

6. 定員 60名（現地参加20名／Web参加40名）

7. 申込方法・期間 WEB 令和3年11月24日（水）～12月13日（月）

8. 受講料 無料

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 研究所3号館セミナールーム

当研修は、受講者のご要望を伺い、現地参加またはWeb参加を決定する予定です。
またCOVID-19感染拡大状況によってはすべてWebで実施する場合もございます。

第1回PTSD研修 A.通常コース

1. 目的

本研修は、災害・事故・犯罪・児童虐待などのトラウマ的体験をされた方々に対して、基本的な精神保健医療対応（こころのケア）を提供する人材を確保するために実施されます。精神保健医療従事者等に対し、トラウマに対するこころのケアについての必要な知識を系統的に習得し、さらに実際のスキルを向上させるような内容が工夫されています。トラウマ反応の考え方、診断評価方法、初期対応、治療対応の基本を習得して頂きます。

この機会を積極的に活用され、日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、公認心理師、臨床心理士等で、実際にトラウマの現場に関わっている方。

3. 研修期間

令和3年11月～12月頃（1日間）

*詳細は8月以降に当センターホームページにてお知らせいたします。

*第1回PTSD研修A.通常コースと第2回PTSD研修A.通常コースの研修内容は同一です。

4. 研修主題

災害被災者、犯罪・事故被害者、災害遺族、被虐待児童等、トラウマに対するこころのケアが必要な方に対応できる人材を確保するため、精神保健医療従事者等に対しトラウマに対するこころのケアにおいて必要な知識を系統的に習得する。

5. 課程内容

	(時間)
PTSDの理解とケア	(1.5)
PTSDのソーシャルワーク	(1.5)
子どものトラウマ	(1.5)
災害時のWHO版PFA(心理的応急処置:サイコロジカルファーストエイド)概論	(1.5)
合計	6時間

6. 定員 60名(予定) ※応募者多数の場合は選考

7. 申込方法・期間 WEB (所属長の推薦書が必要です)

8. 受講料 10,000円(予定)

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター(予定)

第2回PTSD研修 A. 通常コース

1. 目的

本研修は、災害・事故・犯罪・児童虐待などのトラウマ的体験をされた方々に対して、基本的な精神保健医療対応（こころのケア）を提供する人材を確保するために実施されます。精神保健医療従事者等に対し、トラウマに対するこころのケアについての必要な知識を系統的に習得し、さらに実際のスキルを向上させるような内容が工夫されています。トラウマ反応の考え方、診断評価方法、初期対応、治療対応の基本を習得して頂きます。

この機会を積極的に活用され、日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、公認心理師、臨床心理士等で、実際にトラウマの現場に関わっている方。

3. 研修期間

令和3年11月～12月頃（1日間）

*詳細は8月以降に当センターホームページにてお知らせいたします。

*第1回PTSD研修A.通常コースと第2回PTSD研修A.通常コースの研修内容は同一です。

4. 研修主題

災害被災者、犯罪・事故被害者、災害遺族、被虐待児童等、トラウマに対するこころのケアが必要な方に対応できる人材を確保するため、精神保健医療従事者等に対しトラウマに対するこころのケアにおいて必要な知識を系統的に習得する。

5. 課程内容

	(時間)
PTSDの理解とケア	(1.5)
PTSDのソーシャルワーク	(1.5)
子どものトラウマ	(1.5)
災害時のWHO版PFA(心理的応急処置:サイコロジカルファーストエイド)概論	(1.5)
合計	6時間

6. 定員 60名(予定) ※応募者多数の場合は選考

7. 申込方法・期間 WEB (所属長の推薦書が必要です)

8. 受講料 10,000円(予定)

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター(予定)

第1回PTSD研修 B.応用コース

1. 目的

本研修は、災害・事故・犯罪、児童虐待などのトラウマ的体験をされた方々で、何らかの精神症状や社会心理的困難を持っている方々に対して、適切な専門的医療・社会心理対応ができる人材を確保するために実施されます。そのために、認知行動療法（持続エクスポージャー療法）による実際の治療事例を呈示し、患者の回復の可能性と経路を学習し、そうした回復に向けての治療と支援のあり方についてのグループディスカッションを行います。また、犯罪被害者支援を中心としたケースワーク、診断評価、最新の生物学的基盤、薬物療法などについても研修を行います。

この機会を積極的に活用され、日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

症例呈示のため、職業上守秘義務を持っている精神保健医療従事者（医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、公認心理師、臨床心理士の資格を有する者）。過去にPTSDまたはその治療法に関する何らかの研修（本PTSD研修の「A.通常コース」など）を受講していること、あるいは専門的な教育を受けていること。

3. 研修期間

令和3年12月～令和4年1月頃（2日間）

*詳細は8月以降に当センターホームページにてお知らせいたします。

*第1回PTSD研修B.応用コースと第2回PTSD研修B.応用コースの研修内容は同一です。

4. 研修主題

精神保健福祉センター、病院、保健所等において、PTSDに関する専門家が必要とされていることを踏まえ、精神保健医療従事者等に対し、最先端の専門的知識あるいは技術の習得をさせ、有効かつ安全に治療を行うことができる人材を養成する。

5. 課程内容	(時間)
PTSDの診断と評価	(3.0)
PTSDの心理療法	(3.0)
複雑性悲嘆の心理療法	(3.0)
PTSDの神経科学と薬物療法	(1.5)
支援者支援	(1.5)
合計	12時間

6. 定員 60名（予定） ※応募者多数の場合は選考

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）

8. 受講料 20,000円（予定）

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター（予定）

第2回PTSD研修 B.応用コース

1. 目的

本研修は、災害・事故・犯罪、児童虐待などのトラウマ的体験をされた方々で、何らかの精神症状や社会心理的困難を持っている方々に対して、適切な専門的医療・社会心理対応ができる人材を確保するために実施されます。そのために、認知行動療法（持続エクスポージャー療法）による実際の治療事例を呈示し、患者の回復の可能性と経路を学習し、そうした回復に向けての治療と支援のあり方についてのグループディスカッションを行います。また、犯罪被害者支援を中心としたケースワーク、診断評価、最新の生物学的基盤、薬物療法などについても研修を行います。

この機会を積極的に活用され、日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

症例呈示のため、職業上守秘義務を持っている精神保健医療従事者（医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、公認心理師、臨床心理士の資格を有する者）。過去にPTSDまたはその治療法に関する何らかの研修（本PTSD研修の「A.通常コース」など）を受講していること、あるいは専門的な教育を受けていること。

3. 研修期間

令和3年12月～令和4年1月頃（2日間）

*詳細は8月以降に当センターホームページにてお知らせいたします。

*第1回PTSD研修B.応用コースと第2回PTSD研修B.応用コースの研修内容は同一です。

4. 研修主題

精神保健福祉センター、病院、保健所等において、PTSDに関する専門家が必要とされていることを踏まえ、精神保健医療従事者等に対し、最先端の専門的知識あるいは技術の習得をさせ、有効かつ安全に治療を行うことができる人材を養成する。

5. 課程内容	(時間)
PTSDの診断と評価	(3.0)
PTSDの心理療法	(3.0)
複雑性悲嘆の心理療法	(3.0)
PTSDの神経科学と薬物療法	(1.5)
支援者支援	(1.5)
合計	12時間

6. 定員 60名（予定） ※応募者多数の場合は選考

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）

8. 受講料 20,000円（予定）

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター（予定）

第1回PTSD研修 C. 犯罪・性犯罪被害者コース

1. 目的

本研修は、犯罪・性犯罪被害を受けた方々に対して、心理社会的支援・治療を提供する人材を確保するために実施されます。精神保健医療従事者等に対し、こうした対応のために必要な知識を系統的に習得し、さらに実際のスキルを向上させるような内容が工夫されています。

この機会を積極的に活用され、日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、公認心理師、臨床心理士等。実際にトラウマの現場に関わっている方。

3. 研修期間

令和4年1月～2月頃（1日間）

*詳細は8月以降に当センターホームページにてお知らせいたします。

4. 研修主題

犯罪・性犯罪被害者への適切な対応を行うために必要な専門的知識と心理社会的支援・治療対応について習得する。

5. 課程内容

	(時間)
犯罪被害者のメンタルヘルスとケア・支援・行政制度	(1.5)
犯罪被害者遺族の悲嘆と心理的回復	(1.5)
犯罪被害者のPTSDと治療	(1.5)
子どもの性被害者の心理とケア・治療	(1.5)
合計	6時間

6. 定員 60名(予定) ※応募者多数の場合は選考

7. 申込方法・期間 WEB (所属長の推薦書が必要です)

8. 受講料 10,000円(予定)

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター(予定)